

(別紙1) 耐震設計上考慮していない断層に対する評価 [美浜]

1. 敷地周辺及び敷地近傍の断層・リニアメント

No.	名称	分布域	長さ ¹	敷地からの距離 ²	活動性を否定する理由	備考
1	山中断層	陸域	約 6.6km	約 15km	<ul style="list-style-type: none"> 判読リニアメントの尾根・河谷の屈曲が系統的でない リニアメントを横断して新第三系の安山岩岩脈及び流紋岩岩脈が連続して分布 (Loc.Kt-9, Loc.Kt-10) リニアメントに対応する断層なし (Loc.Kt-7 他) 	図 1
2	日野川断層	陸域	約 12.4km	約 21km	<ul style="list-style-type: none"> 河成中位段丘面に変位・変形なし (Loc.Ht-3) 断層面には南東方向に傾斜した条線が認められるが、現広域応力場や地形から推定される左横ずれ南西側隆起の変位センスとは整合しない (Loc.Ht-1, Loc.Ht-2) 	図 1
3	柳ヶ瀬山断層	陸域	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 系統的な地形の高まりなし (Loc.Ut-1) リニアメントは判読されない (Loc.Ut-2) 粘土状破碎部に平面的な断層面なし (複数露頭) 	図 1
4	L - 1 リニアメント	陸域	約 2.4km	約 3km	<ul style="list-style-type: none"> リニアメントに対応する破碎帯なし (北東側) 古期扇状地面 1 に変位なし (南西側) 	図 2
5	L - 2 リニアメント	陸域	約 3.9km	約 4km	<ul style="list-style-type: none"> リニアメントに対応する破碎帯なし (北部) 破碎部の固結 (南部) 変位センスは右横ずれを示し現広域応力場から推定される左横ずれの変位センスとは整合しない (南部) 破碎帯を覆う始良 Tn テフラ (AT) 以前の第四系に変位なし (南部) 	図 2
6	L - 3 リニアメント	陸域	約 1.7km	約 4km	<ul style="list-style-type: none"> リニアメントに対応する破碎帯なし (Loc.L3-1, Loc.L3-2) 	図 2
7	L - 5 リニアメント	陸域	約 1.9km	約 2km	<ul style="list-style-type: none"> 破碎部の固結 (北西側) リニアメントに対応する破碎帯なし (南東側) 	図 2
8	L - 6 リニアメント	陸域	約 3.3km	約 4km	<ul style="list-style-type: none"> 古期扇状地面 1 に変位・変形なし (東部) 破碎部の固結 (Loc.L6-1) 	図 2
9	L - 7 リニアメント	陸域	約 1.8km	約 3km	<ul style="list-style-type: none"> 破碎部の固結 (Loc.L7-1) 	図 2
10	L - 8 リニアメント	陸域	約 2.8km	約 5km	<ul style="list-style-type: none"> リニアメントに対応する破碎帯なし (北西部) 破碎部の固結 (南東部) 粘土状破碎部に見られる変位センスは、現広域応力場から推定される変位センスとは整合しない (南東部) 	図 2
11	海域の断層 (図 3 にて青色で表示した部分)	敷地前面海域	-	-	<ul style="list-style-type: none"> B 層 (後期更新世の地層) 以上の変位又は変形が認められない 	図 3

1 空中写真判読結果に基づく長さ

2 1号機炉心から断層の中心までの距離

2 . 敷地の断層・破碎帯・シーム等

No.	名称	活動性を否定する理由	備 考
12	敷地内の破碎帯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変動地形・リニアメントは判読されない。 ・ 研磨片や薄片による微細構造の観察によれば、最新活動面で正断層センス・左横ずれセンスの変位が推定され、走向と現在の広域応力場との関係から推定される変位センスと調和的でない（一部、カタクレーサイトからなるものもあった）。 ・ 破碎帯を横断して分布するドレライトの貫入岩脈がずらされていないと考えられる。 ・ 剥ぎ取り調査・ピット調査により認められた破碎帯の性状からも最近の活動はないと判断される。 	